

JIA 長野県クラブ 40

社団法人 日本建築家協会

2000. 1. 1



JIA大会'99鎌倉 (村尾会長)



本音で語ろう会 (松本市そば処こばやし)



あすなる見学会 (松本市中町蔵シック館)

謹
賀
新
年



目的意識の共有のために

会長 出澤 潔

新春を寿ぎ、皆様のご清栄をお慶び申し上げます。

旧年中は会員・賛助会員の皆様、行政、関係諸団体、そしてJIA本部・支部の皆様にはJIA長野県クラブに対して大きなご支援を賜りましたこと、心からの感謝を申し上げます。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年、私は他団体の行事ではありましたが、大変貴重な経験をさせていただくことができました。参加する人すべてが目標に対する強い意識を共有して、それに向かって精一杯の努力をする。そのことによって真剣なコミュニケーションが生まれ、信頼が生まれ、喜びが生まれる。こんなわかりきったことを改めて体験させていただいたことは、本当に有り難いことでした。

新しい年を迎えて、あえて申し上げさせていただくとするならば、今私達は私達の持つ共通の目的意識について確認しあう時が来ていると考えています。私達は共通の目的意識を持ってJIAに参加しています。その目的意識を改めて確認し合い、目標に向かって積極的に進む

ことが、今私達に必要なのではないのでしょうか。

私達は私達の持つ共有の目標を、お互いの強い信頼と理解の中で確認しあうことができます。そして、そのためにまず必要なことは、会員皆様の会への積極的な関わりとお互いの会話ではなからうかと私は思います。

最近、私達の会報に対してお誉めの言葉を頂くことが多くなりました。このことは、広報委員会のご努力と会員皆様のご協力の結果であり、皆様方に深い敬意を表すものであります。前号の会報も大変素晴らしい内容に溢れたものでした。「台湾大地震から考える」「住まいづくり相談で思うこと」「雑感」「地震がもたらすもの」「21世紀に向けて考えること」「交流会に参加して」どれもみな、私達が目標としていることに向けて、ご自分の主張を明確にされています。私は皆様がそれぞれの思いをこのように表現し、互いに理解し合い、尊敬し合うことから心のコミュニケーションが始まるのではなからうかと考えています。そして、そのようなコミュニケーションを通して、会って話してみたいという連帯感が生まれ、目標への意識の共有が生まれるのではないのでしょうか。



JIA大会'99鎌倉 に参加して

川上 恵一
(有)かわかみ建築設計室

11月11・12・13日とJIA大会'99鎌倉に参加した。日頃住宅の設計がほとんどの貧乏事務所は、所員6名の積立貯金を全部使い果たし研修旅行を兼ねて出かけた。鎌倉は学生時代、ふられた彼女と来て以来28年ぶりであるが、歴史の厚みにただよう気品に加えて素朴な力強さがあり、懐かしさがあって好きなまちだ。

メインテーマは「建築・街・人—22世紀を見つめて」である。政治・経済・文化等あらゆる分野で『21世紀に向かってナンヤカンヤ』というのに、JIAはもう100年向こうの未来を見つめてテーマ設定しているのはさすがであった。私は初日のプロフェッショナルワークショップで、憧れの円覚寺の書院で民家再生の発表をし、出席した約80名の建築家たちと共に交流を深めた。その後の前夜祭、翌日の基調講演とパネルディスカッション、レセプションパーティー、そして最終日はエクスカージョンで雪ノ下コース（鎌倉市内半日コース）と国宝円覚寺舍利殿の見学に出席した。

基調講演は鎌倉市の住民でもある解剖学者、養老猛司氏が現代人の知覚と行動のアンバランスに言及し、現代の建築もその片棒をかついでいるのではないかと批判しているようにとれた。続くパネルディスカッションでは、長野県生まれの北澤猛氏のコーディネートのもと、竹内鎌倉市長や山本理顕氏らがまちづくりの将来について語り合った。その夜のレセプションパーティーで長野のメンバーと合流し、大会のもう一つのテーマである建築家資格認定制度の動きが活発化された話を聞いた。その後も飲みながら交流を深め夜遅くまでホンネで語り合った。

エクスカージョンでは地元のシルバーガイドが案内してくれたが、単なる観光ガイドでつまらなかった。まち歩きが好きな小生は、つい路地や生活の匂いのする方へ行ってしまう、足手まといのようであった。

それでも大佛次郎、和辻哲郎邸等の和風住宅も見ることができ、文化人の住まいを感じた。国宝の円覚寺舍利殿は特別拝観で関口欣也先生の名解説が楽しかった。これは中国の影響を色濃く受けながら日本独自の美意識中で創られた禅宗様の建築であり、その時代背景と建築とのかかわりを教えていただいた。この2泊3日の旅は内容もり沢山の、大会のテーマもさることながら自分の建築のルーツを探るとてもよい機会でもあった。



本音で語って 親しくなろう

関 邦 則
関建築+まち研究室

12月11日(土)は会員委員会と交流委員会のミックス企画の日。昼過ぎから、見学会・技術交流会・本音で語ろう会・忘年会と目白押し。松本市内にて開催。

見学会では市内中心部で進められているまちづくりの様子をつぶさに見て回った。参加したのは総勢約25人。川上まちづくり特別委員長の案内などによって、松本の歴史あるまちの財産を改めて認識することができた。

技術交流会以降は「そば処こぼやし」にて開催。今年はコーティングコーポレーションの「珪藻土」とダイダンの「HACCP（ハセップ）への取組」の説明が行われた。双方ともなかなか力が入った説明で、おぼろ気だった知識をクリアな情報に置き換えることができた。単なる商品PRというよりも、設計者（正会員）とメーカー（賛助会員）を結ぶパイプづくりと言えらる。

本音で語ろう会は普段顔を合わす機会の少ない会員や新会員も含めて本音で語ることを通して親しくなろうという企画。毎年いろいろなテーマを模索しながら続けてきた。今年は「保存と開発の本音?」・「つくる側・考える側・住む側の本音～ローコストだけで良いのか?」・「行政に対する本音」をテーマに3グループに分れて小人数で語り合った。通常の会議などで集まっても山積みの議題で終始してしまいなかなか議論する場はないので、ここは貴重な場になっている。願わくは議論した内容が今後の活動の中に活かされていくとよいと思う。

忘年会は本音で語ろう会の延長とも言える。景気回復の兆しなどどこにあるのだろうかと思うような本年の建築界の意気消沈を吹き飛ばすかのように皆一生懸命語り合ったに違いない。来年は少しでも良い年になるように、祈るような思いの忘年会であった。

建築家カタログ。間もなく発刊のニュースも聞けた。

～愛と情熱の家づくり～

(仮称) 建築家カタログが
完成しました。

- ・ 県内書店で12月29日発売
- ・ 定価1500円





2000年を迎える にあたって

篠田尚幸
NAO設計室

先日、安曇野を訪れる機会があり、久しぶりに「礫山美術館」を訪ねた。この美術館は、建設にあたって地元の人々が「礫山研究委員会」を発足させ、5年の年月と、小中学生を含む30万人余りの善意と協力によって、1958年4月に開館した。すでに40年以上の風雪に耐え、開館当時の建設に携わった人々の「意志」を今に伝えている。設計者、今井兼次が63歳の時の「共同労作の建築」である。葉の落ちた蔦のからまる煉瓦壁を見ていると、「どういう建築、どんな部屋がいかでいうたら、なんやしらん、この部屋はそんな立派な部屋ではないけど、なんにも障りがのうて、なんか落ち着くなあ、というのがいいんじゃないですか」という中村外二棟梁の話が、ふっと思ひ出された。「癒しの建築」というものがあると思えば、「礫山美術館」はその代表作といえるのではないだろうか。

「礫山美術館」開館以後、日本では1964年の東京オリンピック、1970年の大阪万国博覧会、1980年代のバブル「高度経済成長」の中で、多くの建築が生まれ消えていった。その中に、「心癒される建築」「共同労作の歓び」は、いったい幾つ残されているだろうか。

46億年という、長い地球の時間からみれば、ほんの一瞬、1秒にも満たない、わずかな時の間に、我々は見かけだけの「繁栄」と引き換えに、多くの大切なものを失ってしまったのではないだろうか。

「この建築は私の『作品』です」と言う建築家はいても、「これは私も加わった『共同労作』です」と言う建築家はほとんどいない。著作権まで付ける「先生」にいたっては、建築家というより「独善家」と言うしかない。あまりに傲慢である。こんなことを許してはいけない。このような状況の中での「建築家資格認定制度」なるものは、非常に危ういものと言わざるを得ない。「サグラダファミリア教会」は延々と建設され続け、「交響曲第9番」は世界中で歌われ続けているが、それは、ガウディやベートーヴェンが「建築家」「音楽家」として、「認定」されていたからではない。

可愛い自分、驕りを捨て、「地球の時間」に身を委ねた時、日々の生活を黙々として遂行していくこの大切さが見えてくる。「建築造形の巧拙を論ずる前に先ず最初に私たちが建築の社会的意義を知り、建築理念をはっきりと持つことが大切である」という今井兼次の言葉を今一度噛み締め、次の世代へのバトンのことを考えたい。



設計者への要望

清水政和
㈱越前屋

20世紀最後の年が明けました。ここに謹んで新春のお慶びを申し上げます。

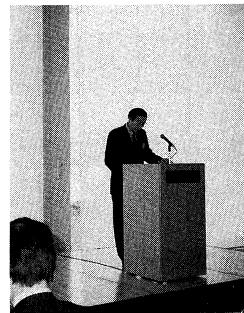
一般的に消費者が設計者と接する機会は、新築や増改築時の他はほとんどありません。もっと身近に頻繁に、両者がコミュニケーションを持つことはできないものかと考えます。

建築物も多様化し情報も溢れていますが、同時に消費者が抱く疑問・要望も多様化しています。しかし、それらの窓口は未だにはっきりしません。賛助会員である設備・資材メーカーも「窓口になろう」と積極的に展開はしていますが、それぞれの建物に当てはめたときの相談者はやはり設計者が適任だと考えます。「建物の設計をする」だけでなく、少し敷居を下げてそれぞれの事情や悩みの聞き手としての役割を担っていただき、その情報を私たちに伝えていただけるよう設計者の方々に要望いたします。「愛と情熱の家づくり」が、設計者と消費者を結ぶパイプとなるだろうと大いに期待しています。



JIA大会'99鎌倉 「全国賛助会員の集い」に参加して

滝澤常人
㈱長野ココロ



長野県クラブの報告をする小野澤氏

11月12日、JIA大会'99鎌倉の「全国賛助会員の集い」に、中信電機㈱・小野澤氏、㈱角藤・渡辺氏と共に参加してきました。各地域会の活動報告があり、小野澤氏が当クラブの活動について発表しました。

主催者挨拶では、「現在の環境における厳しさを考えると、今の時代には開発企画から完成後の維持保全や管理運営にいたるトータルライフサイクルにわたったコンサルティングや、マネージメントサービスの質の向上が不可欠」との話がありました。

記念講演では「スクラップアンドビルドのフローの時代から、生活環境の豊かさや文化性の高さ、保存改修等に大きな比重をおいたストックの時代への転換が進んでいる」という話があり、感銘しました。賛助会員としても同じ考え方の必要性を感じています。

クラブインサイド

第2回会員委員会 松下重雄

10月19日開催。12月11日の「忘年会」に合わせて行う「本音で語ろう会」は賛助会員と共有できるテーマで、分科会方式で行うことを決定。多くの人に集ってもらうように「あすなる見学会」も同時開催することにした。「(仮称)建築家カタログ」は、年内発刊。乞う御期待!!「あすなる建築展」は2月開催で準備中。

第2回交流委員会 高橋重徳

11月2日開催。本年度の実施に向けて技術交流会のあり方、実施方法などについて正会員・賛助会員相互の活発な討議を行った。状況の変化と共に平等に学べる場として、機会や回数を含めて新たな工夫が必要であることで一致。今後も検討を重ねていくことにした。

第6回幹事会 土屋長命

11月2日、賛助会員の(株)シマコー本社会議室にて開催。本部、支部、クラブ各報告の後「見学会・技術交流会・本音で語ろう会・忘年会」の内容について協議。また、あすなる建築展、新年会、学生卒業設計コンクール、文化講演会等についても協議。このほか、JIA大会'99鎌倉への参加確認を行なった。最後に、シマコー様より取扱い製品の紹介をしていただいた。

第2回正副会長会 出澤 潔

11月30日、カミムラ建築研究室にて開催。予算執行状況・今後の事業実施について討議。あすなる建築展・新年会・文化講演会等について担当委員会で具体的な立案を要請。その他、役員改選の選定議員選挙日程・学生卒業設計コンクールなど諸事項について熱心に討議。

クラブアウトサイド

第7回支部会員委員会・会員集会・新会員の集い 久保田 三代

10月8日、建築家会館で開催。委員会では、入退会の審査を実施した。会員集会では、建築家資格制度をテーマに活発な意見交換が行われた。新会員の集いは、当クラブの小林克己氏が出席。JIAの機構や部会について丁寧な説明があった。

第1回・2回選挙管理委員会 須田 考雄

第1回、10月19日開催。委員長に桐木仁志氏(東京)を選出。1999年度の選挙日程や改選役員等を確認。今年より幹事定数変更のため、役員選出規定の一部矛盾について協議。第2回、10月26日開催。規定の一部矛盾する部分は次回総会での改正とした。立候補届けの締切りは12月14日。12月16日に確定(定数一杯の場合)し、1月15日発行Bulletinで公表する。長野地域会は今回改選なし。任期満了役員は高橋重徳氏。2000年度留任役員は関邦則氏。

第18回地域組織整備委員会 出澤 潔

10月26日開催。地域事業助成費の申請について審議し、あらたに4件を承認3件を減額承認した。鎌倉大会での第4回全国地域会合同会議の運営について協議し、地域会活動の顕彰制度・地域会と本部との橋渡し役等について委員長より報告し、意見交換をすることとした。

第3回地域サミット 出澤 潔

10月27日開催。銀座建築祭について、参加者・反響・収支とも成功裡に終わったとの報告あり、鎌倉大会への積極的な参加が重ねて要請された。支部役員の数削減と組織について意見交換があり、地域会から選出される幹事を地域会会長にすべきか今後検討することになった。

第4回文部業務委員会 関 邦 則

11月4日開催。改訂検討中の「建築家の業務」及び「建築家の報酬」、東京都建築物安全安心推進協議会への対応について検討した。今後の業務委員会の活動、JIAニュース「実務情報」担当記事について協議した。

第4回地域会合同会議 出澤 潔

11月11日開催。JIA大会'99鎌倉に併催され、北鎌倉・浄智寺書院で村尾会長、全国地域会代表など40名が参加。出席者全員の発言ということで、全国地域会代表の話聞くことができた。ただ、時間の制限があり十分な議論ができなかったことが残念であった。

第1回文部7-キタツガーデン実行委員会 関 邦 則

11月18日開催。来年も銀座地区で開催することを確認。10月10日から行われている大銀座祭と絡めた開催の可能性と長短所について銀座商店街に打診する。建築学生や一般人が参加しやすい企画を検討していく。

第3回支部役員会 関 邦 則

12月8日開催。西東京地域会設立等の報告。支部役員選挙の中間報告(出澤氏を次期監査に推薦)。公益法人化の経過報告(定款の目的、事業部分を公益性に沿うように改正し外部から理事を導入する方向で検討中)。

- 新入会員紹介 -

賛助役員 (株)タクト (松本市)



編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303
作成 新建新聞社

本年は諸般の事情により年賀状あいさつを割愛しました。